

【対象：経皮的冠動脈インターベンションを受けられ、バルーン拡張前後に VH-IVUS 解析による血管内エコーをされた患者様へのお知らせ】

当院では、近畿大学医学部奈良病院倫理委員会の承認を得て、「経皮的冠動脈インターベンション（PCI）におけるバルーン拡張後の標的病変の VH-IVUS 所見の変化についての臨床研究」を行います。

PCI では標的病変をバルーンカテーテルで拡張後に、一部の動脈硬化巣（プラーク）が長軸方向に前後移動することが知られています。そのような移動は、病変の近傍やそこから分枝する側枝に新たな狭窄性変化をきたす可能性もあります。そこで本調査研究では、どのような病変でプラークが移動しやすく、どのようなプラークの構成成分が移動しやすいのかを拡張前に見いだすことを目的としています。

対象は、PCI において、初回バルーン拡張前後に病変の血管内エコー（IVUS）像が撮像できた患者様です。

調査方法は得られた VH-IVUS 像を用いて、病変の拡張前後の組織的性状を 3 次元的に分析し、カルテおよび血管造影の記録から組織性状の変化に関連する臨床的因子を知るため、統計的解析を用いて後ろ向きに分析します。

当院での調査期間は 2009 年 10 月から 2025 年 3 月までの予定です。

1. 本研究は治療に関する介入はなく、個人が直接同定されうる情報は収集いたしません。血管内エコー検査は通常手術の施行時に行われている検査であり、特別な手技や費用が加わることはありません。
2. 試験への不参加や、参加取りやめを希望される方は下記までご一報くださいますようお願いいたします。情報は削除されます。

問い合わせ先：近畿大学医学部奈良病院 循環器内科 教授 城谷 学

TEL：0743-77-0880

FAX：0743-77-0890